

計画の基本的考え方

計画の理念と2025年を見据えたまちのすがた

▼基本理念

本計画は、2016年（平成28年）3月に策定した「奈良市地域包括ケアシステム基本構想」（以下「基本構想」という。）の考え方を踏まえ、「奈良市版地域包括ケアシステム」を段階的に実現するための推進計画として位置づけられます。

基本構想における理念を本計画の理念として据え、中・長期的な視点に立って地域包括ケアシステムの構築をめざしとりくむものとします。

【基本理念】

「住み慣れた地域で誰もが安心していきいきと
暮らせるまち『奈良』をめざして」

▼2025年（平成37年）に到来する超高齢社会を見据えた本市のすがた

これまでのとりくみから継続している課題や現在直面している新たな課題を踏まえ、地域包括ケアシステムが実現したまちのすがたを次のとおりとします。

■住み慣れた地域で自分らしく生涯健康でいきいきと暮らせるまち

加齢に伴う心身機能、生活機能の低下を予防し、介護が必要な状態にならないよう、市民が主体的に健康づくりや介護予防にとりくんでいます。

また、高齢者が自身の経験と知識を生かしながら、地域において様々な貢献活動に参加したり、多様な年代の人と世代間交流を図ったりするなど、地域とのつながりを保ちながら、自分らしくいきいきと暮らしています。

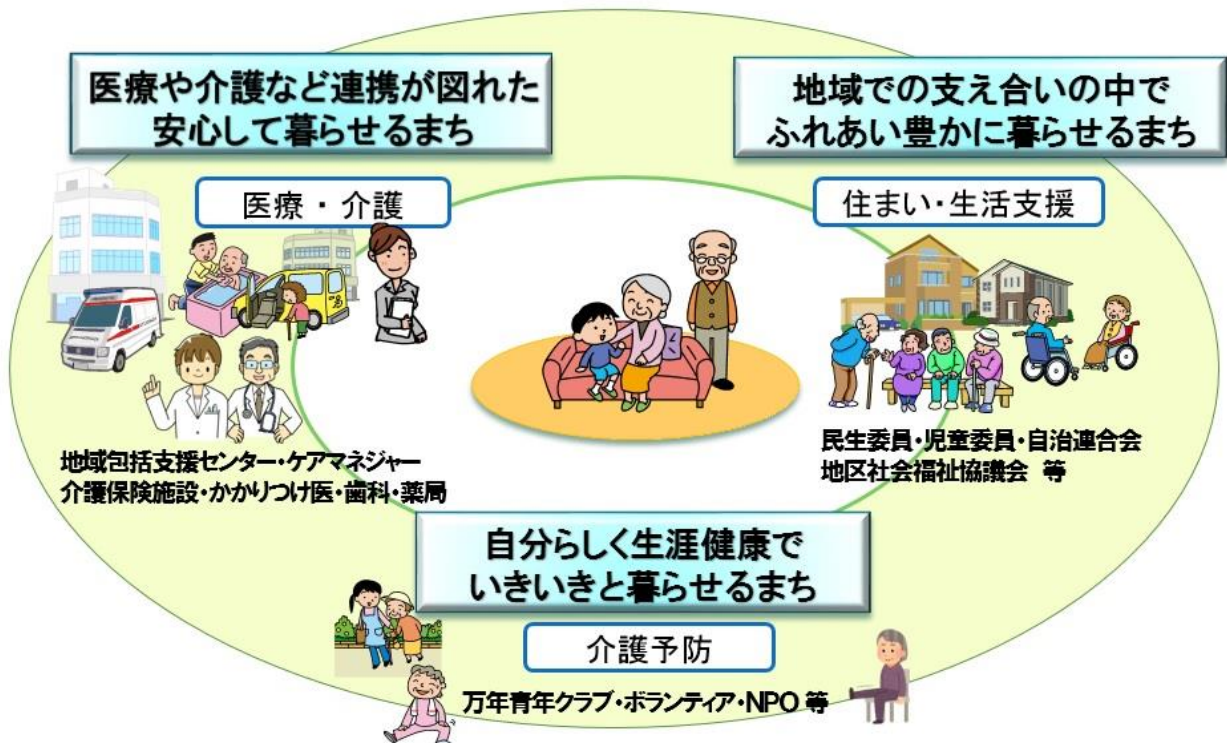
■住み慣れた地域での支えあいの中でふれあい豊かに暮らせるまち

地域における住民どうしの助けあいや支えあいのもと、医療、介護などの関係機関や団体が連携した包括的な支援のためのネットワークづくりがすすみ、高齢者を含む市民みんながふれあい豊かに暮らしています。

■住み慣れた地域で医療や介護など連携が図れた安心して暮らせるまち

ひとり暮らしになったり認知症や介護が必要な状態になったりしても、必要なサービスが適切に利用できるよう、介護保険制度が安定的に運営されています。また、保健、医療、介護サービスの充実が図られ、個人の尊厳が守られながら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしています。

【地域包括ケアシステムが実現したまちのすがた】



【地域包括ケアシステムの構成要素】

「医療」や「介護」といった専門職が提供するサービスは「葉」として表されていますが、今後の介護需要の急増に備えるためには、この葉っぱを大きく育てていかなければなりません。

しかし、人口減少社会の中で専門サービスである「葉」を育てていくことになるため、まずは生活の基盤である「すまいとすまい方」が「鉢」のようにしっかりとしている必要があります。



さらに、植木鉢に満たされる養分を含んだ「土」に例えられる、一人ひとりの「介護予防」や、介護保険制度外の市場サービスから近隣住民の支えあいまでを含む幅広い「生活支援」が充実しなければ、専門職は専門職でなければ提供できないサービスに集中することができずに枯れてしまう可能性があります。

また「皿」で表されているように、これらの全ての基礎として各個人には自ら選択し、その家族を含め、心構えをもつことが求められます。